

『挨拶』は人間としての証

思えば“暑さ寒さも彼岸まで”という言葉も、今年には当てはまらなかつた。4月に入り、ようやく春の暖かな日差しが刺してきたと思えば、次の日にはストーブを付けるという日々が続いた。額面通りにいかないのが天地自然というもの。

末法（まっぽう）という現代社会を生きている私達に、世の中の変革には目に見えないモノへの畏敬の念を忘れてはいけないという、神仏様からの戒め（教え）が、この様な気候の変動をもたらしている様な気もする。『生かされている事に気付きましょう』という事だ。

世の中も同じ。この不景気に政治がダメだ、会社は何もしてくれないとか、そんな事ばかり言っている人が多い様な気がする。確かにまだまだ働ける元気な身体なのに、職にありつけないストレスは分かる。がしかし、口ばかりが達者で、全く行動しようと思わない人はどうかと思う。文句だけなら子供でも言える。かつてケネディ大統領は「国家が

自分に何をしてくれるかを問うな。自分が国に何が出来るかを問え」と演説した。

自分の所属している組織の為に、何が出来るのか？自分の周りの人に何が与えられるのか？そう考えるところに、自分の生き甲斐が見えてくるのではないだろうか。何かを為したいのなら、社会や周囲の環境のせいにする前に、それ相応の自己犠牲を払わなくては行けないのではないか。「大きな成功を願うならば、この上なく大きな犠牲を払わなければいけない」というのはこの世の真理とも言えるだろう。いくつかの例え話でも紹介したが、『振りの原理』と同じだ。自分の気持ちや行動を、出した分だけ自分に戻ってくる。人に何かを求める前に、まずは自分が「与える人」になる事だ。

昨年お亡くなりになった『南無の会長』松原泰道師は、“お釈迦様の教えは3つに集約される”と語られた。

①厳肅（げんしゆく）：万物は流転する。②敬虔（けいけん）：人はあらゆる「おかげ」の中で生かされている事を知れば、敬虔にならざるを得ない。③邂逅（かいこう）：巡り会いの連続によって人生は成り立っている（縁）。

以上の3つは、それぞれ「ありがと・すみません・はい」というシンプルな言葉に還元されるという。万物は流転する中でこの命を生きているから「ありがとう」。おかげを返しきれないから「すみません」。そして天地が与えてくれた巡り合いは拝むしかないから「はい」となる。

つまり、私達は『生かされている』事に気付く教えが仏教ですよと、仰っておられた。ごもつともな解答だと思ふ。『生かされている』とは、何とも当たり前なこと。しかしこの当たり前に気付けなくなつたのが現代社会に生きる私達の心なのではないだろうか？

「ありがとう・すみません・はい」というのは、人間として当然の『挨拶』と言えるだろう。

昨今は寂しいくらいに、元氣な『挨拶（あいさつ）』を耳にすることがなくなつた。聞けば、（犯罪防止の為に、たとえ顔見知りであっても挨拶を交わしてはいけない）と、家庭や学校で指導しているとの事だ。

理由はよく分かる。ならば、家庭ではどうだろうか？親御さんが率先して挨拶をされているのだろうか？ある檀家さんのお宅へお邪魔した時

に、（母親）「ヒロ君、ちゃんとお寺さんにご挨拶しなさい」。（ヒロ君）「…」。（母親）「ごめんなさい。挨拶もしない子なので困っています」と。（私）「お母さんは日頃から、どなたかにお会いしたらちやんと御挨拶をされますか？」。（母親）「…」。という事があつた。

子供が挨拶をできないのは、家庭での躰によると私は思っている。防犯の為に、敢えてしない挨拶とは違い、普段の挨拶が出来ないのは、親の姿によるという事だ。

何でもかんでも「今の若者は…」と全てが子供の責任になっている大人社会は、まさにイジメ社会という構造を作り出したと危惧している。子供を本当に愛し、そして子供の将来を考えているなら、まずは親御さんが背中を見せるのが当たり前のこと。

考えてみると、『挨拶』が出来るのは、人間社会だけだ。『挨拶』は人間の特権と言える。もっと言えば、『挨拶』が出来なければ、犬猫のような畜生と同じと言えるのではないだろうか？

ペットで飼われている犬猫の方が、

よっぱど反応がある。顔を見れば大きな声で吠えてくる。私達は、「万物の長」と豪語する人間に生まれても、畜生以下に成り下がってしまったている。また、そうならざるを得ない環境を、私達が作り出してしまったとも言えるだろう。

そこで《**気付く**》事の大切さがある。気付くとは、悟るという事と同義だ。その悟りを実践した姿を成仏、つまり仏様と呼ぶのだ。その仏様に成る教えが仏教というわけだ。その仏教の中でも、極上の教えが**【法華経】**という事になる。

なぜ**【法華経】**が極上かと言えば、**【法華経】**の教えにのみ、私達が生きながらにして成仏できることが説かれていた（保証されている）からなのだ。

私達は「こうだからこう、ああだからああ」といった、型にこだわらぬ念を持つこともなく、ただ当たり前に毎日を惰性で過ごしてしまっている大人が多い様に思う。目に見えるモノばかりを追求したらどうなるだろうか？「〇〇大学」に入れば、「〇〇会社」に入社して、「幸福な人

生を過ごす事が出来る」。だから「〇〇大学」を目指しましょう、と。こういう事ばかり…。では幸福な人生ってどんな人生なのだろうか？

お金持ちになること？健康でいられること？高級な食事が出来て、高級車に乗って、大きな家に住むことだろうか？これらは全部、目に見えるモノばかり。目に見えるモノを追い求めてもキリが無いだけだ。そこには、一時の満足感を得られても、そんなものはすぐに飽きる事だろう。そこに気付かなければいけない。

そもそも幸せって、誰かに「あなたは幸せですね。あなたは不幸ですね」と、他人に決められる様な物ではありません。自分の心が決めるんでしょう？自分の現状に満足できるか出来ないかが、幸不幸を決めるのでしょうか？

「心」って、目に見えない「気持ち」を込める」という事も、目に見えない。私達は当たり前の様に天地自然に感謝をしなければいけない。目に見えないことを良い事に、感謝するどころか、当たり前に思ってしまうている。

天地自然に感謝したならば、始めて「生かされている」事を肌で実感する事ができる。

同じ『挨拶』でも気持ちを込めて、感謝して言わなければ、何より自分の心が満たされないのだ。型にこだわって、「やればいんですよ？」では、何の意味もない。『挨拶』をするのは、相手は勿論、自分の為にする行為でもあるのだ。そこに気付かねばいけない。

そして私達は、1つ1つの物事の奥に隠されている、目に見えない大切なモノに**【法華経】**を信仰しているのではないだろうか。

どうか、親御さんから『挨拶』を実践して、「ありがとう・すみません・はい」という言葉を、お子さんに投げかけてあげてほしいと思う。まずは家庭から…。

副住職 谷川寛敬

合掌



◎「法華経 de 寺子屋」

・毎月第二土曜日

・午後二時より

◎水子供養会

・毎月十三日

・午後一時半より

◎唱題行脚

・毎月二十八日

・午後一時半より

光月の参加者

谷川寛敬・伊藤宗治・高木秋子
吉崎琴美・蝶涼太・高円富美子
土居可久子・大谷美穂・経崎三登志
谷川貢・阿閉江里子・谷川久仁子

大谷のお墓掃除

恒例のお墓掃除に行きましょう！

今年七月二十五日（日）

・朝五時真成寺集合

